

令和7年度足立区文化芸術劇場運営評価委員会 会議録

会 議 名	足立区文化芸術劇場運営評価委員会	
事 務 局	地域のちから推進部 地域文化課長 地域文化課広域施設係	江連 嘉人 係長 小栗 洋平 主任 鈴江 和俊 主任 村田 貴紀 高橋 勇人
開催年月日	令和8年1月22日（木）	
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分	
開催場所	シアター1010 講義室	
出席者 (敬称略)	熊倉 純子 (東京藝術大学大学院 教授)	垣内 恵美子 (政策研究大学院大学 名誉教授)
	立石 訓人 (公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京)	高柳 千代 (シアター1010友の会 会員)
	中島 明子 (元足立区区民評価委員会委員)	
欠席者	なし	
次 第	1 資料確認・事前説明等 2 開 会 3 委 嘱 4 「1. 管理状況」の「チェック項目」の確認および審議 5 「1. 管理状況」の「加点項目」の確認 6 「2. 事業効果」の「チェック項目」および「加点項目」の確認 7 指定管理者ヒアリング・質疑応答 8 仮採点 9 最終審議・決定 10 閉 会	
資 料	事前送付分 ・足立区文化芸術劇場条例 ・足立区文化芸術劇場条例施行規則 ・募集要項 ・シアター1010リーフレット ・足立区文化芸術劇場(シアター1010)概要	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本協定書</li> <li>・5カ年計画</li> <li>・令和6年度協定書</li> <li>・管理運営業務仕様書</li> <li>・令和6年度事業計画書</li> <li>・令和6年度事業報告書</li> <li>・チェック項目説明書・加点提案書</li> <li>・アンケート集計</li> <li>・業務評価チェックシート</li> <li>・所見記入シート</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">当 日 配 付 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・「評価の仕組み」</li> <li>・採点記入表（様式）</li> <li>・指定管理者作成資料一式</li> </ul>
そ の 他	

**【1 資料確認・事前説明等】**

（割愛）

**【2 開会】**

<事務局>

それでは、定刻より少し早いですが、皆様にお集まりいただきましたので始めさせていただきます。本日はお忙しい中、令和7年度 足立区文化芸術劇場指定管理者運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の司会進行を務めます、地域文化課の小栗と申します。よろしくお願いたします。ではまず、地域文化課長の江連より、皆様に一言ご挨拶申し上げます。

<江連課長>

地域文化課長の江連と申します。本日は寒い中お越しいたき、誠にありがとうございます。今年は令和6年度の事業評価となりますが、ちょうど開設20年目の節目の年でございました。20年前、私が入区して間もない頃にできた施設がもう20年経つのかという思いもございましたが、1年ずつの積み重ねの中でシアター1010も成長してきました。しかし、まだまだ評価をして改善しなければいけない部分は多々あるかと思えます。逆に、20年経ったからこそ、今後どう進めていくかという部分も含めて、委員の皆様の専門的な知見からご意見を賜れればと思っております。本日は2時間を予定しております。短い時間ではございますが、よろしくお願いたします。また、事前に評価項目が多い中、評価の確認等に時間を割いていただき、ありがとうございます。本日はよろしくお願いたします。

<事務局>

それでは、今年度新たに再任していただく中島委員をご紹介します。メンバーの変更はありませんが、新たな委嘱となりますので、10月1日付で委嘱状の交付をさせていただきます。

（委嘱状の交付）

<事務局>

ありがとうございます。それでは、本日配布した資料を確認させていただきます。まず「資料シ」でございます。続いて、評価の仕組みを書いた「資料タ」です。続いて「採点記入表」、

次に「請求書兼口座振替依頼書」、最後になりますが、指定管理者からの提出資料として「足立区文化芸術劇場運営評価委員会の皆様へ」というタイトルの資料となります。皆様、お手元にごございますでしょうか。事前にお送りした資料をお持ちでなく、お手元に必要な方がいらっしゃいましたらお声がけください。皆様、よろしいでしょうか。ありがとうございます。続きまして、会議を始めるにあたり、本委員会の委員長であります熊倉純子委員長よりご挨拶をいただいてもよろしいでしょうか。

（委員長 挨拶）

<事務局>

ありがとうございます。それでは、ここからは座って進行させていただきます。本日は議事録作成のため、ボイスレコーダーで録音させていただきますので、よろしくお願いたします。改めて、ただいまより足立区文化芸術劇場指定管理者運営評価委員会を開会いたします。この委員会は、足立区文化芸術劇場条例施行規則第18条第3項により、過半数の出席により成立いたします。現在、過半数に達しておりますので、委員会は成立しております。それでは議事に入ります。シアター1010の指定管理者の運営について、「1. 管理状況」と「2. 事業効果」という2つの観点でご審議いただきます。お手元の資料「評価の仕組み」も合わせてご覧ください。

「1. 管理状況」については、基礎点となるチェック項目は、全体として区のモニタリング結果を追認していただくか否かでご判断ください。加点項目は個別にご審議いただきます。

「2. 事業効果」については、チェック項目・加点項目ともに皆様にご審議いただきます。特に「1. 管理状況」の加点項目、および「2. 事業効果」のチェック項目・加点項目については、シアター1010の荒井館長にも入っていただき、ヒアリングと質疑応答の時間を設けておりますので、確認をしていただければと思います。なお「1. 管理状況」のチェック項目の追認についても、直接、荒井館長にご確認いただいて結構ですので、気になる点がございましたらご質問ください。

その後、各委員に採点をしていただき、その集計を事務局が行います。集計結果を皆様にお返しし、それを基に委員会としての最終的な審議・採点を行っていただきます。

次に、採点についてご説明します。「1. 管理状況」のチェック項目は3点満点で、未達成項目

が1つあるごとに1点減点となります。加点項目は「提案内容」と「その成果」に分かれており、それぞれ0.5点刻みで満点は各1点、合計で2点の項目となります。チェック項目と加点項目を合わせて5点満点となります。チェック項目において、私どもがあらかじめ行った採点を委員会で追認していただいた場合は、区の採点がそのまま点数となります。加点項目については、区の採点はあくまで参考としていただき、委員会の皆様でご審議ください。

次に「2. 事業効果」ですが、こちらも区の採点を記入しておりますが、あくまで参考としていただき、チェック項目・加点項目ともに皆様でご審議いただければと思います。なお、管理状況・事業効果ともに、一部の項目で「得点×2」とする箇所もございます。

これら全ての項目の採点終了後、合計点を算出して評価基準に当てはめます。採点とは別に、ランクダウンすべき重大な事項があればそれを加味して最終評価を出していただきます。なお、Bランク以上(95点以上)であれば合格となります。昨年度はランクAマイナスで123点でした。

今回の令和6年度の運営評価における大きな違いとして、シアター1010が令和6年11月から令和7年4月まで、区の設備工事のため休館している点があります。休館期間中は窓口業務のみを行っており、公演や部屋貸しは行っておりません。それでは、熊倉委員長、進行をよろしく願いいたします。

### 【3 「1. 管理状況」の「チェック項目」の確認および審議】

<熊倉委員長>

議事に入ります。ご審議にあたっては、事務局からの資料にお目通しいただいているという前提で進めてまいります。では、まず「1. 管理状況」のチェック項目について、事務局から報告をお願いします。

<事務局>

管理状況のチェック項目全般について報告申し上げます。指定管理者から提出された各種報告書や、シアター1010への訪問、聞き取り、目視確認、日常業務でのやり取り等を確認した結果、チェック項目については特に問題はなかったと判断しております。

なお、昨年度の評価委員会において、5ページの「1-1-4 危機管理が適切に行われているか」で不備があった項目がありました。昨年の減点

内容は、ある公演でダブルブッキングを起こしてしまったことと、その際の「30分ルール(事故発生から30分以内の区への報告)」が守られていなかったことによるものです。令和6年度に改善されているかを確認したところ、指定管理者側でダブルブッキングに対する「二重チェック体制」の構築と、全職員への「30分ルール」の再周知・再確認が行われたことを確認しました。改善がなされているため、今回は問題なしとして記載しております。以上です。

<熊倉委員長>

ありがとうございます。管理状況の基本となるチェック項目について事務局から説明がありましたが、何かご意見、ご質問などはございませんか。

<中島委員>

管理状況の「1-A-1(2) 言葉遣いや態度」は接遇の部分だと思いますが、ここは「苦情等なし」となっています。しかし、アンケートの自由記入欄には「丁寧な方とそうでない方がいる」「ツンツンとした態度で感じが悪い」「寝ているスタッフがいた」といった記載がありました。これらがあるのに「苦情なし」となっているのが気になりました。

<熊倉委員長>

直接の苦情はなかったかもしれないけれど、アンケートでは不満が出ていたということですね。細かく見ていただきありがとうございます。そうすると、この項目の基礎点は「2」の方が良いのかもしれませんが、どうでしょうか。採点表を書く際に、各委員の判断で変えても良いのでしょうか。

<事務局>

区の採点根拠としては、「苦情」は一方向的に受けるもの、「アンケート」はこちらから意見を聴取した結果という認識で分けて評価しております。しかし、アンケートでのマイナス評価を考えると、それを含めて評価すべきか、委員の皆様にご判断いただければと思います。

<熊倉委員長>

全面的に追認するのではなく、後ほど館長のお話を聞いた後に、個々の判断で採点していただくという方式にしたいと思います。他にも項目がありますが、区の評価は基本満点で、今年は加点も多く高い評価となっています。他に意見はございませんか。

<垣内委員>

概ね賛同していますが、5か月間の休館期間があり、利用者数も減っています。令和5年度と比べれば相対的に伸びているという評価ですが、コロナ禍前と比べてどうなのか、また5か月の休館のインパクトをどう評価するかについて、事務局の考えを共有させていただけますか。

<事務局>

コロナ禍前まで戻っているかについては、指定管理者からはその水準まで戻ってきていると聞いております。休館の影響については、区からの補填金での運用や、休館中の受付業務、次年度に向けた準備、工事終了後のスムーズな運営移行など、区と連携して滞りなく対応いただいた点を評価しております。

<熊倉委員長>

他に委員の皆様から聞いておきたいことはございますか。

<垣内委員>

資料の事業計画書では、平成31年から令和4年の実績で約19万4,500人の利用者となっていますが、ここにはコロナ禍の令和2年も含まれています。コロナ禍前はもっとお客さんがいたのではないかと思います、そのあたりを確認させてください。

<事務局>

細かい数字については、現在手元で把握しきれれておりません。

<熊倉委員長>

後ほど館長がいらっしゃった時に確認をお願いします。では、加点項目の説明をお願いいたします。

#### 【4 「1. 管理状況」の「加点項目」の確認】

<事務局>

加点項目について説明します。指定管理者からの提案に対し、1つの例外を除き、すべての項目で加点提案を受けております。例外は「1-B-2 施設設備の経年劣化に対応している」で、これは設置数により自動的に点数が決まるため、加点提案はできない項目です。指定管理者からの加点提案の内容は、A3のチ

ェックシートの各項目に記載されています。例えば「1-A-1」では、20周年の節目と休館を見据えた運営業務という提案を受けています。これに対し、提案内容の実施状況や具体的な成果が確認できないとして、区では加点を認めなかった項目もございます。

次に区として加点を認めなかった主な項目を補足します。

「1-A-1 施設運営業務等の適正実施」については、20周年の検証等は他の項目で評価することとし、アピール内容は通常業務の範囲内と判断しました。

「1-A-2 職員の勤務状況体制」についても、シフト管理や協力体制の構築は通常業務の範囲内と判断しました。

「1-A-3 人材育成」では、休館期間中の研修実施は評価し加点しましたが、その成果が不明確であるため、成果分については加点しておりません。

「1-B-1 施設計画の遂行」については、予防保全等は評価しますが、成果としては区が求める安全安心の範囲内と判断しました。

「1-C-1 個人情報保護」については、研修の継続は通常努力の範囲であり、セキュリティワイヤーの設置以外は昨年と同様であるため加点しませんでした。

「1-C-2 個人情報事故への対応」も、内容が昨年とおおむね同じであったため加点しておりません。

「1-D-1 適正な財務状況」については、休館期間中にプラス収支を出したとの提案がありましたが、区からの補填があったことも踏まえ、加点要素とまでは言えないと判断しました。以上です。

#### 【5 「2. 事業効果」の「チェック項目」および「加点項目」の確認】

<熊倉委員長>

今の説明に質問はございますか。特になければ事業効果の方に移ります。

<事務局>

事業効果についても、加点を認めなかった項目を中心に説明します。チェック項目については、すべての項目で標準を満たしていると判断しております。

加点を認めなかった項目として、「2-A-4 区の施策を考慮した事業の実施」および「2-A-5 区共催事業の企画実施」は、いずれも仕様書の範囲内の内容であったため、加点しておりません。

「文化芸術活動に関する情報収集・発信・相談」については、関東高等学校演劇協議会から感謝状を贈呈された点について、継続的な取り組みが評価されたとして、成果に対し0.5点加点しました。

「2-C-1 利用状況」について資料に誤りがありました。正しくは「実績が5.0点、評価が4.0点」となります。申し訳ございません。最後に「2-D 利用者アンケート結果」のうち「施設維持満足度」について、平均は4.57点となりますが、一部の項目で基準を満たしていないものがあつたため、事務局としては4点と評価しました。以上です。

## 【6 指定管理者ヒアリング・質疑応答】

<熊倉委員長>

ありがとうございます。では、荒井館長に入ってくださいませ。

<荒井館長>

今年度4月から館長職に就任しました荒井です。よろしくお願ひいたします。前館長の佐々木も同席させていただきます。

お手元の資料に基づきご説明します。昨年度の評価委員会でもいただいたご指摘への補足からです。

まず「指定管理料の還元」についてですが、予算の仕組み上、直接的な割引等は難しいですが、公演の充実など、区民の方に喜ばれるイベントを通じて還元していきたいと考えております。次に「区民を呼び寄せる仕掛け」として、6年度は20周年を記念し、キャラクター「テンテン」の亚克力スタンドを配布するなどの広報に努めました。自主・共催公演の区民来場比率は令和5年度の29%から33%へ向上しております。貸館と主催公演の比率については、令和6年度は貸館24企画（185公演）、自主・共催6企画（10公演）でした。車椅子でのご来場者数についても、5年度はカウントしておりませんが、6年度は把握に努めております。令和6年度の報告サマリーですが、7か月という短い稼働期間の中で、充実した事業運営に努めてまいりました。休館中の5か月間は職員の研修に充て、有意義な時間となりました。管理状況については、施設の経年劣化が目立っております。ここ数日でも、劇場の扉やリフターの故障、トイレの不具合などが相次いでおり、日々点検と修理にあたっております。

研修については、休館期間を利用し、接客やカスタム対策など、共同事業体各社で専門的な研

修を実施しました。

事業効果については、共催事業が目減りしております。原因として、2.5次元舞台の需要が落ち着いてきていることが挙げられます。ただし、平均入場者数は95%と前年より向上しており、アンケート満足度も97%と高い評価をいただいております。

劇場利用率は86パーセント対82パーセントと、若干数字が伸びております。

利用者数は7/12カ月の18万8903人対12カ月の24万3000人ですので、良い数字ではあると思います

広報活動としての20周年記念品も大変好評でした。私からは以上です。

<熊倉委員長>

ありがとうございます。委員の皆様からご質問はありますか。

<高柳委員>

車椅子の利用者を増やす取り組みや、児童養護施設の方などを優先的に招待する工夫はできないでしょうか。また、パワハラ・セクハラ対策の具体的な実施状況についても伺いたいです。

<荒井館長>

障がいのある方へのアプローチは十分意識しております。今年度は聴覚障がいの方向けに手話案内付きの落語会なども実施しました。ハラスメント対策については、航空会社の講師を招いた研修や、プロモーターズ協会のセミナーに参加し、専門的な対応を学んでおります。

<垣内委員>

老朽化への対応も大変だと思いますが、今後の大規模改修の予定はどうなっていますか。

また、利用者数について、コロナ禍前（ピーク時）と比較して現在はどのような状況でしょうか。

施設の満足度のところで分かりにくいというお声があつたが、何がわかりにくかつたのでしょうか。施設の表示なのか。案内なのか。

<荒井館長>

改修については区と相談しながら進めております。利用者数については佐々木よりお答えします。

<佐々木名誉館長>

正直、コロナ禍前までは復活していません。

ピーク時は2.5次元舞台が非常に盛況で、40万人を超える時代もありましたが、2.5次元舞台の公演が減っています。また、ギャラリーをスポットで利用する方が減っています。現在は構造的な変化もあり、単に良い公演をやるだけでなく、劇場の使い勝手の良さをアピールするなど、違う形での魅力付けが必要だと考えております。

<荒井館長>

表示や案内が分かりづらいという点については、具体的なご意見を調べて対応させていただきます。

<佐々木名誉館長>

分かりにくさの要因として、館内よりも、北千住駅から施設までの経路や、エレベーターの待ち時間などが挙げられることも多いようです。

<立石委員>

防火管理者の有資格者が増えているとのことですが、それを日常の安全管理やシフトにどう活かしていますか。

また、20周年の冠がついている公演のラインナップを拝見したところ、割と渋め、固めというか、鉄板のラインナップかなと思っております。とはいえ、貸館公演と主催公演の比率とを考えると、主催だけだとエンターテイメント公共劇場を達成するのは難しい。そこで、貸館の利用者の様相や内訳（興行系と地域の発表会等の比率）を教えてください。

<荒井館長>

防火管理者は現在5名おり、常に誰かがいる体制です。資格取得により意識が高まり、訓練でも具体的な意見が出るようになりました。2.5次元が衰退していますので、アンテナを張って次に何が来るか、また利用方法も考えながら、対応していきたいと思っております。

<佐々木名誉館長>

貸館の内訳については、発表会等は少なく、大半が演劇や音楽などの実際の興行公演です。

<立石委員>

稽古場を利用している若い創造的な団体なども多いと思っておりますので、そうした点もアピールポイントになろうかと思っております。

<荒井館長>

ありがとうございます。貸館事業の方、特に稽

古場だけお使いになるような方たちとコミュニケーションを取り、密に関係が作れるように努力いたします。

そうすれば、委員がおっしゃるような次の展開が望めるかもしれません。

<中島委員>

無料招待企画でキャンセルが出てしまう点について、具体的な改善策はありますか。

<荒井館長>

無料ゆえにキャンセルが出るのは課題です。事故にならない範囲でのオーバースタッキングなど、対策を模索しております。

<高柳委員>

俳優座さんとか文学座さん、民藝さん等が以前はたまに来ていた気がしますが、また来ていただきたいなと思います。

また、文楽の無料招待もされているし、映画「国宝」が流行もしていますので、日本伝統のものも来てくれると嬉しいです。

<荒井館長>

お声がけや相談等、話をしていきたいと思っております。

<熊倉委員長>

たとえば、他区の某ホールは全国のアマチュア音楽団体のメッカとなっているなど世間的な位置付けをどう意識していくのかも重要で、貸館のラインナップも評価の大きなポイントになります。世間的な位置付けを示すデータの蓄積をお願いします。また、バリアフリーや社会包摂的な施策も重要です。

<垣内委員>

足立区民の中での認知度はどの程度でしょうか。

<事務局>

数値については、後ほどお知らせいたします。

<熊倉委員長>

将来的に、シビックプライドとなっているかを示す数字があると良いですね。

<佐々木名誉館長>

まさに区民の誇りにしたいと思っております。頑張ります。

(指定管理者退室)

<熊倉委員長>

それでは採点表の記入をお願いします。

(採点記入表の受理。集計作業)

(各委員に集計結果を配付)

<熊倉委員長>

集計結果が出ました。

## 【7 仮採点】

<事務局>

結果を報告します。

「1 管理状況」の「A 適切な管理の履行」は18.8点。

「B 安全性の確保」は16.4点、「C 法令等の遵守」は10.1点、「D 適切な財務財産管理」は6.4点。

「2 事業効果」の「A 事業の取り組み」は18点、「B 活動支援の取り組み」は11.4点、「C 利用の状況」は4.2点、「D 利用者満足度」は38点。

合計点は123.4点、評価ランクは「A マイナス」となります。

## 【8 最終審議・決定】

<熊倉委員長>

昨年よりわずかに厳しくなりましたが、ランクは変わりません。何かご意見ありますか。

よろしいでしょうか。

(承認)

それでは、これにて閉会いたします。ありがとうございました。事務局にお返しします。

## 【9 閉会】

<事務局>

本日の審議内容や採点をまとめまして、指定管理者への結果報告、また評価結果の公開等進めてまいります。

また、本日皆様からいただいた意見を、今後のシアター1010の運営に活かしてまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、本日は長時間にわたりましてご審議いただき、ありがとうございました。